

令和7年度 浦添中学校 各教科シラバス

学 年	3年	教科名	美術
教科担当			
教科書名	美術2・3上 学びの実感と広がり、美術2・3下 学びの追求と未来		
副 教 材	沖縄県版「沖縄の美術」美術資料		

「シラバス」とは、各教科の授業内容や学習の方法、評価の方法などを記した総合的な学習計画のことです。浦添中学校の「シラバス」は、生徒の皆さんが1年間、何を学び、どのように学習を進めていくかを示すことで、見通しを持って、計画的・主体的に授業に取り組めることをねらいとして作成しています。

また、各教科の評価の観点から3観点としてシラバスに示してあります。

I「知識・技能」…各教科等で、学習する過程で身に付けた知識や技能の習得状況について評価を行います。また、それらを既に身に付けている知識や技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に、概念として理解したり技能を習得したりしているかについて評価を行います。

II「思考・判断・表現」…各教科等の知識や技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力を身に付けているかを評価します。

III「主体的に学習に取り組む態度」…知識や技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力を身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みの中で、自ら学習を調整しようとしているかを評価します。

生徒の皆さんは、各教科の授業における「学び」が実生活とつながっているということを実感し、各教科が示す「基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得」ができるよう努力してください。さらに「各教科で学んだ基礎的・基本的な知識・技能を活用する活動(思考・判断・表現等)」に積極的に取り組んで下さい。この地道な努力が、「主体的に学ぶ力(=学びに向かう力)」を育成することにつながります。

1 美術科の目標と評価について

教科の目標	(1) 主体的に美術の活動に取り組み美術を愛好する心情を深め、心豊かな生活を創造していく意欲と態度を高める。 (2) 対象を深く見詰め感じ取る力や想像力を一層高め、独創的・総合的な見方や考え方を培い、豊かに発想し構想する能力や自分の表現方法を創意工夫し、創造的に表現する能力を伸ばす。 (3) 自然の造形、美術作品や文化遺産などについての理解や見方を深め、心豊かに生きることと美術とのかかわりに関心を持ち、よさや美しさなどを味わう鑑賞の能力を高める。
評価の観点	(知識・技能)○それぞれの素材や性質が感情にもたらす効果を多様な視点から理解している。○造形的な特徴などをもとに、全体のイメージや作風で捉えることを理解している。○自分の表したいものに合った材料や用具を選択し、意図に応じて創意工夫してあらわしている。○材料や用具、表現方法の特性などから制作の順序などを総合的に考えて、見通しをもって制作をすすめている。 (思考・判断・表現)○題材に合わせて、自分の中から主題(テーマ)を生み出している。○作品の全体や部分との関係を考えて構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。○作品から、よさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫について幅広く考えている。また、多様な視点に立って、見方や感じ方を深めている。 (主体的に学習に取り組む態度)○表現、鑑賞の活動に自分から積極的に、深く取り組んでいる。○よりよい表現を目指して試行錯誤を重ねて創意工夫をしている。○見通しをもちながら粘り強く表そうとしている。○独創的な視点で、作品のよさや美しさなどを感じ取ろうとしている。○作者の心情や表現の意図と創造的な工夫について考えようとしている。また、見方や感じ方を深めようとしている。
評価方法	①準備・片付け、授業中の取り組み・発表・態度、提出期限、定期テスト ②構想段階のアイデアスケッチ、表現する物の組み合わせ方や配置、発想の独創性 ③題材ごとに使う道具を正しく使えているか、学んだ表現方法以上の工夫があるか ④他者の作品から学び取ろうとしているか、相互鑑賞でのアドバイスや感想、定期テストの点数

2 美術科の学習について

授業の進め方の	○授業で指示される制作のポイントをしっかりと把握し、意欲的に課題に取り組みましょう。 ○自分の良さを伸ばし、上手くいかないことがあっても諦めないで最後まで取り組みましょう。 ○作品制作だけでなく、美術資料などから知識や技能を幅広く身につけ、多様な表現や発想ができるように心がけましょう。 ○アイデアスケッチやワークシートなどで、自分が制作していく作品についてのテーマや構想をしっかりと考えて取り組みましょう。
---------	--

	○教科書・美術資料・ビデオ教材・生徒作品等を鑑賞し、学びあいの学習やワークシート等で、自分の意見や感想を表現できるようにしましょう。
テ ス ト 定 期	・事前に発表された範囲をよく見て学習し、技法や制作手順を振り返っておきましょう。 ・テスト当日の持ち物を忘れないようにしましょう。

3 年間指導計画

4月～7月	・美術科 オリエンテーション 授業への持ち物 ① 絵画・デザイン（学びの探求と未来） （今を生きる私へ） （空間は現実を超えて） （きらめきゆらめき） （ルネサンスが目指した物） （あの日を忘れない） （貸し・借り は、禁止です） ・筆記用具（鉛筆・シャープペンシル・消しゴム・定規・その他） ・教科書 上・下 ・ファイル ・美術資料 ・絵の具セット（課題によります） ② ◎思考・判断・表現 ○主体的に取り組む態度 ○知識・技能 ③ 進路を考え始める生徒達によっては、自分自身を見つめ、生き方を深く考え始める時間に差し掛かる。また、卒業後に美術を選択しない生徒にとっては、生涯最後の美術教育になるかもしれない。その学年のスタートとして、この時期に美術を学ぶ意味について深く考え、他者や社会とのつながりへと視野を広げさせ、豊かで創造的な生き方について、造形的な切り口で見方・考え方を深められるような表現で、作品を仕上げる事ができる。
8月～12月	① 彫刻・工芸（イメージを追い求めて） （自分へ贈る卒業記念品） （心がほっとなごむもの） （さまざまなアートに触れよう） （日本の世界文化遺産受け継ぐ伝統と文化） （石を掘る布を染める動画をつくる） ② ◎主体的に取り組む態度 ○思考・判断・表現 ○知識・技能 ③ イメージしたものを抽象的に捉えて構想し、形に表す力を高めていくことをねらいとし、具体的な形から余分な部分をそぎ落として、より単純な形に捉え直していく場合と、素材の質感や色合いと、伝えたメッセージやテーマとを重ね合わせていく場合とがある。抽象的な表現は、表現者自身の感覚にその形や色彩の選択が委ねられる部分が多く、独創的なものの見方・考え方を培うことができる。 形の変化や調和を考えることで、全体のバランスや美しさを総合的に判断しながら制作を進める感覚も培われ、思考力・判断力・表現力などをより一層高めていくことが期待できる。アイデアスケッチや立体スケッチなどで十分に構想を練ることが大事である。立体作品をあらゆる方向からどのように見えるのかを確かめながら表現し、仕上げる事ができる。
1月・2月	① デザイン（塗り絵） ② ◎主体的に取り組む態度 ○思考・判断・表現 ○知識・技能 ③ 集中して取り組み、いろいろな技法を使って美しく表現することができる。

3月	・1年間のまとめ
----	----------

4 家庭学習のアドバイス

○生活の中で、「きれいだな」「すてきだな」「おもしろいな」と思った絵やデザイン、写真、形などをスケッチしたり写真に撮ったりしてアイデアを貯めておきましょう。

○いろいろなものをよく見ましょう。また、いつも見ているもの、身近なものでも、見る角度を変えると新しい発見があります。普段から「見方を変えて見る」ということをしてみましょう。

令和7年度 浦添中学校 各教科シラバス

学 年	2年	教科名	美術
教科担当			
教科書名	美術2・3上 学びの実感と広がり、美術2・3下 学びの追求と未来		
副 教 材	沖縄県版「沖縄の美術」美術資料		

「シラバス」とは、各教科の授業内容や学習の方法、評価の方法などを記した総合的な学習計画のことです。浦添中学校の「シラバス」は、生徒の皆さんが1年間、何を学び、どのように学習を進めていくかを示すことで、見通しを持って、計画的・主体的に授業に取り組めることをねらいとして作成しています。

また、各教科の評価の観点点が3観点としてシラバスに示してあります。

I「知識・技能」…各教科等で、学習する過程で身に付けた知識や技能の習得状況について評価を行います。また、それらを既に身に付けている知識や技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に、概念として理解したり技能を習得したりしているかについて評価を行います。

II「思考・判断・表現」…各教科等の知識や技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力を身に付けているかを評価します。

III「主体的に学習に取り組む態度」…知識や技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力を身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みの中で、自ら学習を調整しようとしているかを評価します。

生徒の皆さんは、各教科の授業における「学び」が実生活とつながっているということを実感し、各教科が示す「基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得」ができるよう努力してください。さらに「各教科で学んだ基礎的・基本的な知識・技能を活用する活動(思考・判断・表現等)」に積極的に取り組んで下さい。この地道な努力が、「主体的に学ぶ力(=学びに向かう力)」を育成することにつながります。

1 美術科の目標と評価について

教科の目標	(1) 主体的に美術の活動に取り組み美術を愛好する心情を深め、心豊かな生活を創造していく意欲と態度を高める。 (2) 対象を深く見つめ感じ取る力や想像力を一層高め、独創的・総合的な見方や考え方を培い、豊かに発想し構想する能力や自分の表現方法を創意工夫し、創造的に表現する能力を伸ばす。 (3) 自然の造形、美術作品や文化遺産などについての理解や見方を深め、心豊かに生きることと美術とのかかわりに関心をもち、よさや美しさなどを味わう鑑賞の能力を高める。
評価の観点	(知識・技能)○それぞれの素材や性質が感情にもたらす効果を多様な視点から理解している。○造形的な特徴などをもとに、全体のイメージや作風で捉えることを理解している。○自分の表したいものに合った材料や用具を選択し、意図に応じて創意工夫してあらわしている。○材料や用具、表現方法の特性などから制作の順序などを総合的に考えて、見通しをもって制作をすすめている。 (思考・判断・表現)○題材に合わせて、自分の中から主題(テーマ)を生み出している。○作品の全体や部分との関係を考えて構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。○作品から、よさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫について幅広く考えている。また、多様な視点に立って、見方や感じ方を深めている。 (主体的に学習に取り組む態度)○表現、鑑賞の活動に自分から積極的に、深く取り組んでいる。○よりよい表現を目指して試行錯誤を重ねて創意工夫をしている。○見通しをもちながら粘り強く表そうとしている。○独創的な視点で、作品のよさや美しさなどを感じ取ろうとしている。○作者の心情や表現の意図と創造的な工夫について考えようとしている。また、見方や感じ方を深めようとしている。
評価方法	①準備・片付け、授業中の取り組み・発表・態度、提出期限、定期テスト ②構想段階のアイデアスケッチ、表現する物の組み合わせ方や配置、発想の独創性 ③題材ごとに使う道具を正しく使っているか、学んだ表現方法以上の工夫があるか ④他者の作品から学び取ろうとしているか、相互鑑賞でのアドバイスや感想、鑑賞カード、定期テストの点数

2 美術科の学習について

進 授	○授業で指示される制作のポイントをしっかりと把握し、意欲的に課題に取り組みましょう。 ○自分の良さを伸ばし、上手いかわないことがあっても諦めないで最後まで取り組みましょう。 ○作品制作だけでなく、美術資料などから知識や技能を幅広く身につけ、多様な表現や発想ができるように心がけま
-----	--

作業方法	しょう。 ○アイデアスケッチやワークシートなどで、自分が制作していく作品についてのテーマや構想をしっかりと考えて取り組みましょう。 ○教科書・美術資料・ビデオ教材・生徒作品等を鑑賞し、学びあいの学習やワークシート等で、自分の意見や感想を表現できるようにしましょう。
テスト定期	・事前に発表された範囲をよく見て学習し、技法や制作手順を振り返っておきましょう。 ・テスト当日の持ち物を忘れないようにしましょう。

3 年間指導計画

4月	・美術科 オリエンテーション ① デザイン（学びの実感と広がり） （なんでこれが美術なの？） ② ◎知識・技能 ○思考・判断・表現 ○主体的に取り組む態度 ③ 染織面を使い、造形的な視点や新たな考えなどを学ぶことで、これまで気付かなかった発見や作品の魅力などに気づき丁寧に表現することができる。	授業への持ち物 （貸し・借り は、禁止です） ・筆記用具（鉛筆・シャープペンシル・消しゴム・三角定規セット・その他） ・教科書 上・下 ・ファイル ・美術資料集 ・絵の具セット（課題によります）
5月・6月	① デザイン（デザインで人生を豊かにする） （暮らしやすさのデザイン） （構図に思いをのせて） ② ◎知識・技能 ○思考・判断・表現 ○主体的に取り組む態度 ③ デザインの表現の幅は無限とも言え、目的や条件の設定によって表現は幅広く深くなる。このようなデザインの表現を豊かにしていくためには、構成や用途や技能など、ねらいを持って取り組ませ、透視図法を使い、表現することができる。	
7月～12月	① 工芸・彫刻（手から手へ受け継ぐ） （つくって使って味わう工芸） （岡本太郎 芸術はみんなのもの） ② ◎知識・技能 ○思考・判断・表現 ○主体的に取り組む態度 ③ 工芸のねらいは、手づくりのものを自ら使う楽しみを実感させることにある。自分で考え、デザインし、つくったものは、愛情が湧き、大切にしたいと感じる。使い捨てる文化が横行する一方で、気に入った物を長く大切につかうというライフスタイルも浸透してきている。 日々の暮らしの中で使う道具に興味を持ち、素材の特徴を生かして作られていることを知る。そして、自分が使いたい物を素材の良さを生かして作ろうとする意欲を持って意識させながら、クラフトバンドをつかい、基本の形一つ、自分で考えた形一つ、合計二つを完成させることができる。	
1月	① 絵画（季節を楽しむ心） （色彩の特徴を深く知る 日本の伝統色）	

	(水と筆を操る) ② ◎知識・技能 ○思考・判断・表現 ○主体的に取り組む態度 ③ 水彩絵の具を使い、試しながら身に付けた造形的な見方・考え方を生かし、自分自身が表したい良さや美しさの本質を深く見つめ、探求し、見た物を忠実に模写して、着採することができる。
2月・3月	① デザイン（塗り絵） ② ◎主体的に取り組む態度 ○思考・判断・表現 ○知識・技能 ③ 集中して取り組み、いろいろな技法を使って美しく表現することができる。 ・1年間のまとめ

4 家庭学習のアドバイス

○生活の中で、「きれいだな」「すてきだな」「おもしろいな」と思った絵やデザイン、写真、形などをスケッチしたり写真に撮ったりしてアイデアを貯めておきましょう。

○いろいろなものをよく見ましょう。また、いつも見ているもの、身近なものでも、見る角度を変えると新しい発見があります。普段から「見方を変えて見る」ということをしてみましょう。

令和7年度 浦添中学校 各教科シラバス

学 年	1 年	教科名	美術
教科担当			
教科書名	美術1 美術との出会い		
副 教 材	沖縄県版「沖縄の美術」美術資料		

「シラバス」とは、各教科の授業内容や学習の方法、評価の方法などを記した総合的な学習計画のことです。浦添中学校の「シラバス」は、生徒の皆さんが1年間、何を学び、どのように学習を進めていくかを示すことで、見通しを持って、計画的・主体的に授業に取り組めることをねらいとして作成しています。

また、各教科の評価の観点と3観点としてシラバスに示してあります。

I「知識・技能」…各教科等で、学習する過程で身に付けた知識や技能の習得状況について評価を行います。また、それらを既に身に付けている知識や技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に、概念として理解したり技能を習得したりしているかについて評価を行います。

II「思考・判断・表現」…各教科等の知識や技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力を身に付けているかを評価します。

III「主体的に学習に取り組む態度」…知識や技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力を身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みの中で、自ら学習を調整しようとしているかを評価します。

生徒の皆さんは、各教科の授業における「学び」が実生活とつながっていることを実感し、各教科が示す「基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得」ができるよう努力してください。さらに「各教科で学んだ基礎的・基本的な知識・技能を活用する活動(思考・判断・表現等)」に積極的に取り組んで下さい。この地道な努力が、「主体的に学ぶ力(=学びに向かう力)」を育成することにつながります。

1 美術科の目標と評価について

教科の目標	(1) 楽しく美術の活動に取り組み美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を創造していく意欲と態度を育てる。 (2) 対象を見つめ感じ取る力や想像力を高め、豊かに発想し構想する能力や形や色彩などによる表現の技能を身に付け、意図に応じて創意工夫し美しく表現する能力を育てる。 (3) 自然の造形や美術作品などについての基礎的な理解や見方を広げ、美術文化に対する関心を高め、よさや美しさなどを味わう鑑賞の能力を育てる。
評価の観点	(知識・技能)○それぞれの素材や性質が感情にもたらす効果を理解している。○造形的な特徴をもとに、全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。○自分の表したいものに合った材料や用具を選択し、意図に応じて工夫してあらわしている。○自分の主題に応じて、制作の順序を考え見通しをもって制作をすすめている。 (思考・判断・表現)○題材に合わせて、自分の中から主題(テーマ)を生み出している。○作品の全体或部分との関係を考えて構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。○作品から、よさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫について考えるなどして、見方や感じ方を広げている。 (主体的に学習に取り組む態度)○自ら進んで表現の活動に楽しく関わり、常によりよい表現を目指している。○独創的な視点から心豊かに表現する構想を練ろうとしている。○表現方法の試行錯誤を重ねて創意工夫をするなど、粘り強く表そうとしている。○自ら進んで楽しみながら、作品のよさや美しさなどを感じとっている。○作品から新しい視点を探して、見方や感じ方を広げようと粘り強く取り組んでいる。
評価方法	①準備・片付け、授業中の取り組み・発表・態度、提出期限、定期テスト ②構想段階のアイディアスケッチ、表現する物の組み合わせ方や配置、発想の独創性 ③題材ごとに使う道具を正しく使っているか、学んだ表現方法以上の工夫があるか ④他者の作品から学び取ろうとしているか、相互鑑賞でのアドバイスや感想、定期テストの点数

2 美術科の学習について

	○授業で指示される制作のポイントをしっかりと把握し、意欲的に課題に取り組まましょう。 ○自分の良さを伸ばし、上手くいかないことがあっても諦めないで最後まで取り組みましょう。
--	--

進授 め業 方の	○作品制作だけでなく、美術資料などから知識や技能を幅広く身につけ、多様な表現や発想ができるように心がけましょう。 ○アイデアスケッチやワークシートなどで、自分が制作していく作品についてのテーマや構想をしっかりと考えて取り組みましょう。 ○教科書・美術資料・ビデオ教材・生徒作品等を鑑賞し、学びあいの学習やワークシート等で、自分の意見や感想を表現できるようにしましょう。
テ ス ト 定 期	・事前に発表された範囲をよく見て学習し、技法や制作手順を振り返っておきましょう。 ・テスト当日の持ち物を忘れないようにしましょう。

3 年間指導計画

4月・5月	・美術科 オリエンテーション ① 絵画 (美術との出会い) (中学校美術の世界へようこそ) (この教科書で学ぶみなさんへ) (沖縄の美術、美術資料(絵画・彫刻・デザイン・工芸)) ② ◎主体的に取り組む態度 ○思考・判断・表現 ③ 美術は、才能がある生徒だけができる教科ではない。教科として、学びの視点や見たり考えたりするときの着目する点などに気付かせるで、誰もが学びを深めることができる教科であることを理解することができる。	授業への持ち物 (貸し・借り は、 禁止です) ・筆記用具(鉛筆・ シャープペンシル・消し ゴム・定規・その他) ・教科書 ・ファイル ・美術資料 ・絵の具セット(課題に よります)
6月・7月	① デザイン (色彩の基本・仕組み、色をつくろう) ② ◎知識・技能 ○思考・判断・表現 ○主体的に取り組む態度 ③ 色光(テレビなどの光)、色料(絵の具や印刷インクなど)、絵の具の混色、点描、重色、距離を変えて見てみよう、色の三属性、色の対比、色の感じを理解し、表現することができる。	
8月・9月	① 工芸・彫刻 (デザインや工芸との出会い、クリップ) (暮らしの中の木の工芸) ② ◎思考・判断・表現 ○主体的に取り組む態度 ○知識・技能 ③ 工芸は、人間の生活にとって欠かすことができないものであり、よりよく生きるために様々な道具をつくり、よりよく伝えるための様々な方法を工夫して表現することができる。	
10月	① 絵画 (鉛筆で描く、拡大模写・グラデーション) (見つめると見えてくるもの) (じっくり見ると見えてくるもの) (人間っておもしろい) ② ◎思考・判断・表現 ○知識・技能 ③ 一連の鑑賞や表現活動を主体的に取り組ませることによって、創造活動の喜びを味わい、感性を豊かにし、心豊かな創造への態度や情操を養い、表現することができる。	
11月	① デザイン (文字っておもしろい、明朝体・ゴシック体) ② ◎知識・技能 ○思考・判断・表現 ○主体的に取り組む態度 ③ 形や色彩などが工夫された文字のデザインを造形的な視点から味わう、分かりやすさと美しさ、楽しさなどとの関係について考えるなど、鑑賞と関連させながら、正しいレタリングができる。	
12月	① 工芸 (折って、切って、巻いて、折り紙を使って) ② ◎知識・技能 ○主体的に取り組む態度 ③ 折ったり、切ったり、丸めたりして立体的に加工したり、身の回りに飾るなどして鑑賞したりする活動を通して、紙の性質を生かした加工法を工夫させ、紙の良さや魅力を味わい作品を仕上げる ことができる。	

12月・1月 ・2月	① デザイン（鉛筆で書く 水彩で描く さまざまな技法で描く、表現技法・モダンテクニック） ② ◎知識・技能 ○思考・判断・表現 ○主体的に取り組む態度 ③ スパッタリング、フロッターージュ、ドリップング、マーブリング、バチック、にじみ（ぼかし）を理解し、作品として仕上げて提出することができる。
3月	① デザイン（塗り絵） ② ◎主体的に取り組む態度 ○思考・判断・表現 ○知識・技能 ③ 集中して取り組み、いろいろな技法を使って美しく表現することができる。
	・1年間のまとめ

4 家庭学習のアドバイス

○生活の中で、「きれいだな」「すてきな」「おもしろいな」と思った絵やデザイン、写真、形などをスケッチしたり写真に撮ったりしてアイデアを貯めておきましょう。

○いろいろなものをよく見ましょう。また、いつも見ているもの、身近なものでも、見る角度を変えると新しい発見があります。普段から「見方を変えて見る」ということをしてみましょう。